

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872300419		
法人名	有限会社 豊地質		
事業所名	グループホーム ゆたかの郷		
所在地	兵庫県三木市宿原1263-86		
自己評価作成日	平成28年12月2日	評価結果市町村受理日	平成29年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、敷地内の菜園や畑で、無農薬、有機野菜をつくっており、食材として提供しております。
 2、毎年クリスマスリースを、職員と入居者全員で協力して毎日作り(平成27年度実績600個位)、ご家族、近隣、幼稚園、他の施設、病院、支援センター、市長室、などいろいろなところにプレゼントしています。また、東日本大震災後は、復興支援として釜石市・にメッセージを添えお送りしました。
 3、法人社長が自治会役員をしている、地域のボランティアの方と交流の場を持つなど地域とのかかわりが深いことです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭に咲く季節の木々や花が利用者のみならず来訪者も楽しませてくれる。隣接した管理者の自宅裏庭に、ゆっくりくつろげる広々としたテラスがあり、利用者が開放感を味わえる快適なスペースになっている。職員は、管理者の思いである家庭的な雰囲気を大切に作るケアを、開設以来、一貫して実践している。家庭の味でもある具たくさん汁物や手作りデザートを振舞い、季節感ある利用者の好むメニューを工夫している。自然に職員も同じテーブルで和気あいあいと歓談している様子は、事業所の大きな特徴でもあり、あたりまえの風景ともなっている。利用者自身も特技を活かし、共同生活の中で役割として充実感を味わっている。利用者が自分らしく誇りを持ち、心安らぐ生活を過ごせるようサポートをする姿勢は、今後も事業所の強みとして継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が安心して、自分らしく暮らせる馴染みの場所となるために、他事業所と比べ、同じ職員が関われる時間が多いという特性を生かしたケアを日々実践しています。	管理者は、「ゆったりとした家庭的な雰囲気」を重視し、職員も家族のように関わっていることで、利用者の安心に繋がっている。理念として掲示はされているが、職員が、あらためて日々の業務の中で理念に沿ったケアを考える機会は、少ない。	職員に、日々の業務の中で理念が浸透し再認識できる機会を工夫されてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月1回程度、地域ボランティアの方々と演奏会を催し、紙芝居も楽しんでいます、自治会主催のふれあいの会に参加するなどのお付き合いをし、代表者は地域の役員を続けており地域との交流に務めています	管理者は、開設前から地域の住民であり繋がりは深い。利用者の中には地元の住民もあり、自治会主催の集まりには定期的に参加している。大正琴のボランティアや、紙芝居を読んでもらうボランティアの訪問もあり、利用者は来訪を待ち望み、日常的に地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や定期的な演奏会などの場で研修や日頃の実践の経験から得たことを事例として説明して、認知症の方に対する理解を深めていただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や、地域の方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に生かしています。また、出席して下さる市職員の方と地域情勢などの情報交換をしています。	運営推進会議には、地域包括、民生委員、地区長、家族が参加している。参加者から、在宅介護での異食についての相談があり、認知症になると異食するものかという内容に、事業所側から事例を挙げて助言する等、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問な点や不可解な点など、常に市の担当者に相談するようにしております。	市の認知症高齢者の見守りSOSネットワークに登録し、市内の認知症高齢者の安全対策に取り組むなど、市とは協力関係を築いている。また、事業所としての実施状況や管理体制についても、市担当者に疑問がある場合は相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で、身体拘束をしないケアの実践のために、いかに入居者の安全を確保するかを日頃から話し合っております。	ケアマネが権利擁護推進委員として活動していた経験から、職員にアドバイスをしている。車椅子からの立ち上がり阻止する為に、車椅子を机に寄せて立ち上がり難くすることも拘束にあたることなど、日常のケアの中で振り返り、検討している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が人権を尊重する旨を理解しており、お互いの意見が言い合えるようなアットホームな事業所作りに努めております。	形式的な研修はおこなっていないが、日々の業務の中で、職員間で利用者の人権や尊厳を守るケアを話し合っている。今年3月1日より、サービス向上委員会を立ち上げ、様々な課題に取り組み、利用者への虐待防止についても検討している。	会議等の中でも、研修の時間が持てるよう工夫していただきたい。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はパンフレット等を使用して制度を学び、入居者のご家族が必要ではと感じた場合は、ミーティングで協議しています。また、事業所の目につきやすいところに市の相談案内を提示しています。	事業所の掲示板に成年後見制度を紹介したパンフレットが掲示されている。職員がその制度について学ぶ機会は少ないが、今回、成年後見制度を活用する利用者を通じて、制度を身近に学べる機会になると考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者と担当者の2名で面談し、十分な時間を持って説明しております。	管理者と介護計画担当者が面談し、十分に時間をかけて説明をしている。病院から自宅に戻ることが困難で直接事業所に来る人、家族と一緒に事業所を見学した際に事業所の雰囲気を利用者が気に入り、入居を決めた事例もある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、意見を運営に反映するようしております。また、直接言いにくい方の為に、2カ月ごとに無記名の家族意見書を返信用封筒を同封しお送りしております。	管理者手作りの「花だより」を定期的に作成、事業所の季節行事やお知らせを掲載し、家族に送付している。家族からの意見を吸い上げる手段として、2ヶ月ごとに、無記名によるアンケートを家族に送付し、結果を参考にしている。運営に関する意見はあがらない。	家族の要望を吸い上げるためにも、アンケートの内容を見直すなど、何らかの工夫を期待したい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所に自宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践するよう努めております。	管理者は職員を労うため、仕事の始業時、或いは終了時にコーヒーを囲み、意見を出し易い雰囲気作りに努めている。職員も気軽な雰囲気の中で、業務内容を共有し、課題を繋げ、利用者へのケアの充実を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常駐しているので職員個々の状態を把握できています。家庭の事情に合わせて休暇を与えるなど職場環境の向上に努めています。社会保険労務士や市の担当者に相談しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を開催している事業所から、研修開催に関する情報をファクスで受け入れる体制をとっており、情報が届いたときには、職員に研修の参加を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員と意見を交換する機会を設け、同業者と交流する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者への面会時、入居時の不安を少しでも軽減できるように、必ず面会は職員2名で行い、より多くの情報収集ができるよう努めております。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの時間をとって、家族との面会を重ね、情報収集を行いながら、ホームの生活等を説明し、信頼関係づくりをし、入居後は頻繁に電話連絡をして安心していただけるよう努めております。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面会で得られた情報と担当のケアマネと必ず面談しているので、そこから得られた情報をもとに、その方にとって最も適切なサービスは何かを職員間で話し合っております		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃やリース作りなどの作業を行うときは、必ず職員が入居者と一緒に行う、食事は同席するなど関係性の向上に努めております。また、一人ひとりのアルバムを作り、職員と共に過ごしていることが共有できるようにしております。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や家族意見書で家族の意見を取り入れるように努め、本人と家族の絆を大切にしながら、支えていける関係を築いています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後の馴染みのある方からの面会の申し出があるときは、事業所で面会していただくようにしております。その際は安全確保のために、本人と家族の許可を得るようにしております。また、参加可能な入居者の方は、自治会主催のふれあいの会に参加しております。	もともと地域住民であった利用者は、入居前から繋がりを持っており、地域の行事に参加することで馴染みの人との交流を継続している。友人が面会に来た際は、家族に確認のうえ、利用者と一緒に楽しめてもらっている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、入居者同士の関係をよく観察して、食堂やリビングの席順を考慮し、孤立せずに入居者全員が家族のように過ごせるよう支援しております。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の情報収集を常に心がけ、情報を得た時には、電話をするなどして、関係性を大切にしています。また、出かけた先で、家族に会ったときは、気軽に声かけするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を作成するときは、可能な限り本人の希望、意向を確認するように努め、困難な場合は、本人の日頃の様子をよく観察して、本人がよりよく暮らせるように努めております。	利用者の高齢化により、意向の聞き取りが難しくなっている利用者もいる。その場合は、家族からの提案や意向を参考にしたり、普段の他の利用者とのやり取りや日常生活を送る中で、利用者一人ひとりの楽しんでいる場面から汲み取っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず担当ケアマネから情報提供をしてもらい、入居後は本人との会話や家族の面会のときの思い出話を傾聴し、新たな情報が得られたら記録をするなど、これまでの暮らしの把握に努めております。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、ささいな情報でも共有して把握に努めております。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れ、主治医、訪問看護師と相談して、職員全員で話し合ってから介護計画を作成しています。	長い期間、共に過ごしている職員から見た利用者の思い、家族の要望、主治医、看護師からの意見を集約して介護計画を作成している。利用者の自立支援を重視し、寝たきりにならない、その人に必要な支援を組み込んだ計画となるよう心がけている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌は毎日記入し、毎朝ミーティングを行い、必要な場合もミーティングを適宜行い、情報を共有しています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所や地域の自治会と情報交換するなどして、さまざまなニーズに柔軟な対応ができるよう努めております。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めています。また、本人の豊かな暮らしにつながる地域資源があれば、利用できるかを検討しております。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係が途切れないように、努めております。かかりつけ医と事業所が協力して、本人に快適な生活を提供できるように、必要時には、受診の付き添いをしております。	これまでのかかりつけ医との関係を大事にしているが、現在は、全員が協力医の往診を利用している。他科受診の場合は職員が付き添い、利用者の状態把握に努めている。行きつけの歯科に受診している人もいるが、希望で歯科往診の利用もできる。毎週、衛生士による口腔ケアも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来られる訪問看護師に、日常の関わりの中でとらえた情報や気づき、素朴な疑問などを相談して、適切な看護を受けられるように支援しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療できるように、できるだけ早期に退院できるように、必ず職員が付き添い病院関係者に情報提供をし、入院後は定期的に面会に行き情報交換、相談をしております。また、病院関係者に定期的にあいさつ回りをして関係づくりを行っております。	肺炎等の入院があったが早期退院となり、事業所でサポートした。入院時は、利用者が安心して治療できるようこまめに見舞い、医療関係者とは特に認知症状に関する情報交換を重視し、共有に努めている。早期退院に向けた事業所としての受け入れ体制についても、その都度職員間で協議している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望を聞き入れて可能な限り事業所で生活していただくように努め、重度化しても、本人に快適に過ごしていただくため主治医、訪問看護と協力する、地域資源を検討するなど、チームとして支援に取り組んでおります。	契約時に、緊急時及び重度化対応について、事業所の方針を説明し、理解を得ている。利用者の歩行状態や重度化により、やむをえず他施設への提案、主治医の指示により入院する場合もあるが、可能なかぎり事業所での生活の継続を検討している。重度化等の対応に必要な職員研修は、今後の課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員4名が応急手当普及員の資格を取得しており、急変時、緊急時の対処方法表を、目に付くところに設置しております。また、AEDを設置しております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、近隣住民へも災害時の協力を要請して、緊急連絡網に電話番号を記載と自動通報装置連絡先に登録させいただいております。	6月に通報、避難誘導訓練、12月に避難誘導、地震訓練を利用者も共に行った。昼間を想定しての実践に即した避難経路の確認を行った。運営推進会議等で、近隣との協力関係の必要性を働きかけ、日頃から関係性を築いている。夜間想定ではまだ行えていない。	次回、夜間想定による訓練をお願いしたい。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で、入居者の話をする時は、イニシャルで入居者を呼ぶ、排泄介助の際、周りの入居者に聞かれないように、席を離れてから声かけをするなど、プライバシーを尊重した対応を心がけております。	毎日のミーティングでの利用者個々のケア方法について検討する中で、不適切なケアとならないよう職員間で気づきを出し合い、話し合っている。認知症状からくる不穏や不安状態を十分にアセスメントすることで、個々の思い等を汲み取り、ケアに反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、何か行動を起こそうとする時は、とりあえず見守りをするよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	清掃等の作業を行う時、参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず、本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切にした支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれを大切にしつつ、職員は入居者全員との調和が保たれるよう気配りをし、入居者が気持ちよい生活が送れるように支援しております。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、食材について説明を行い、入居者と職員が共同でお茶入れ、台拭き、お箸配り、配膳などの出来ることを役割分担して、食事を行っております。	業者から配達された調理済みの物を湯煎し、盛り付けて提供している。ご飯や汁物、デザートは職員が作る。メニューによっては、職員がひと手間加え、味付けや形態を変え、よりおいしく食べられるよう工夫する。季節毎の手作り野菜も彩を添え、職員との会話も弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の観察から得た情報、体重、主治医に相談したことなどを考慮して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしております。また必要な入居者は定期的に歯科衛生士の口腔ケア指導を受けております。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しております。また、入居され始めのとき、表示板を使用してトイレの場所を覚えていただくようにしております。	現在、ほとんどが布パンツで、個々に応じて職員が声かけし、トイレに誘導している。不安な場合は、パットを使用し、自分で交換する人もいる。夜間は、不安によりベッド横にポータブルトイレを置いて、休んでいる人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を中心にした献立にしており、朝、夕のテレビ体操、階段を利用した運動、ベランダでのストレッチ、近隣の散歩、庭掃除等の生活リハで予防に取り組んでおります。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間帯は決めています。声掛けして、本人の希望があった場合は毎日入浴して載せております。入浴時間は本人の意思を尊重しております。	目安は週2回、男性と女性で日を変えて入浴してもらっている。現在は毎日入浴している人はおらず、足浴やシャワー浴も希望で柔軟に対応している。安心してゆっくりつろいでもらえるよう、利用者の習慣や好みを優先している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように、日中リース作りや生活リハをしていただくようにしております。休憩は、入居者のその日の状態、気候などを考慮して適宜していただくようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者には服薬時、説明をし、各自の服薬表を、ファイルして、職員がいつでも確認できる場所に保管しております。また、薬の変更があり状態の変化がみられる場合は、主治医に相談し、バイタルチェックをこまめに行うなどしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハを行うときは、できることできないことを把握して、一人ひとりができることを役割分担しております。また、日頃の観察から、入居者の状態に合った、楽しみごとを提供できるように支援しております。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候を考慮して可能な限り、入居者同士の話題作りのために外出する機会を設けております。また、状態の良い入居者は、本人の希望でカラオケ、買い物、散歩などを頻繁に行うなどの個別対応をしております。	個々の希望でおやつや日用品、食べたい物を買に行く。中にはラーメンが食べたくなり、複数で食べに行った。地域のふれあい喫茶で、地域の住民とおしゃべりを楽しむ。隣の代表者の庭のテラスでお茶したり、花を愛でることもある。近所をぶらぶら散歩している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に行ったときは、職員が介助しながら、本人にお支払いいただくようにしております。地域のイベントに参加して、たこ焼きなどの好みの物を買っていただきました。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	元旦は、入居者全員が、家族と新年のあいさつをできるように電話して、その他の場合でも家族との電話は、必ず本人に代わって会話をしていただけるよう支援しております。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、また、気分転換に外気浴ができるようにペランダを活用し、夏場は、すだれで快適に利用できるようにするなど季節を感じられる工夫をして、居心地よく過ごせるようにしております。	代表者の自宅リビングそのまま、利用者の居心地の良い空間となっている。テレビボードやゆったりしたソファ、飾り棚、食卓テーブルが置かれ、利用者は我が家のようにくつろいでいる。2階リビングの窓からは、梅の花が目を楽しませてくれる。最低限の段差、階段が残されているが、利用者はリハビリを兼ね自分のペースで行き来している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングキッチンにそれぞれ、イスがあるので、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっております。また、仲の良い入居者同士がくつろげるように居室にテーブルとイスを設置しております。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	所持品を持ちこまれている方は少ないのですが、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする、窓から野菜、果物の成長を楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせるような工夫をし、一人一人の状態に合わせてベッドの配置を換えたり必要に応じて介護ベッドを利用して載っております。	高台に位置し、居室窓からの見晴しは良く、季節の移ろいが感じられる。ベッドの他、小型の机や椅子が置かれ、利用者は仲良くリース作りに勤しんでいる。整理筆筒の上に写真や小物を飾ったり、花を飾っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所に設け、なるべく見守りで自立歩行をしていただいております。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしております。		